

SGH成果発表会2016①



【口頭発表した研究班の代表】

2016年12月21日(水)、SGH指定初年度の「成果発表会」を本校体育館で開催しました。
第1部の基調講演に続いて、第2部は、高1の課題研究班の代表(五つの班)およびSGHクラブ(ディベート班、福島班、台湾班)の口頭発表を行いました。午後の第3部は、すべての研究班(32班)とSGHクラブ等のポスター発表を行いました。

本校SGHの「運営指導委員」や「アドバイザー」の先生方を初めとする来賓24名、県内外の教育関係者40名、県内の高校生40名、本校の保護者約20名、合計約120名の方々に、これまでの成果を発表し、御指導をいただきました。



【基調講演】

第1部 基調講演 ながはまとしひろ 永濱利廣氏

「持続可能な社会の実現に向けて、経済学ができること」
～日本の財政・現状と展望～

第一生命経済研究所調査部首席エコノミスト、
経済財政諮問会議政策コメンテーター、
(株)あしぎん総合研究所客員研究員、
あしかが輝き大使、佐野ふるさと特使等、佐高OB

<質疑応答>



【質疑応答】：会場から活発な質問がありました。

第2部 課題研究発表 I (口頭発表)

- ① 本校のSGHの取組について(校長)
- ② 代表班の発表

- 【公害や災害からの復興】
「過去から学ぶ
～被災者の現状と今後に対する対策」(1班)
- 【自然・生命】
「里山のすばらしさ」(7班)
- 【食料・エネルギー・水】
「未来創造」(12班)
- 【環境と経済・法律】
「佐野市発 地元の食材で新商品開発」(19班)
- 【人権・文化・教育】
「2020年へのおもてなし」(26班)

<ここまでの質疑応答>

- ③ SGHクラブディベート班
- ④ SGHクラブ福島班
- ⑤ SGHクラブ台湾班

<口頭発表の講評> 宇都宮大学 松金公正先生



【本校のSGHの取組について】



【公害や災害からの復興：1班】



【自然・生命：7班】



【食料・エネルギー・水：12班】



【環境と経済・法律：19班】



【人権・文化・教育：26班】



【質疑応答】



【SGHクラブディベート班】



【SGHクラブ福島班】



【SGHクラブ台湾班】

第3部 課題研究発表Ⅱ（すべての班によるポスター発表）



ポスターの周りには多くの参加者が集まり、大変な熱気でした。生徒達は説明をしたり、質問に答えたりしていました。参加者には、良かった発表のベスト3を投票していただきました。その結果は、「SGH 通信 No. 36」でお知らせします。

講評 本校の「SGH運営指導委員」および「グローバル教育統括アドバイザー」の先生方に、それぞれ御講評をいただきました。

- 松金公正先生（宇都宮大学）：今日の結果には満足していない。皆さんを高校1年生としてみているのではなく、同じ研究者としてみている。もっとやれるはずだという意味で期待している。
- 池田伸子先生（立教大学）：グローバルとは人が移動すること、人と人がつながること、そのときに必要なことはコミュニケーションである。そのために伝えることが大切。プレゼンは中身も大切だが、伝え方も大切である。聴衆を巻き込む「しかけ」や「みやすさ」などを勉強して欲しい。
- 伊村智先生（国立極地研究所）：一歩先へ歩み出す結論が欲しい。自分の枠を広げる気持ちで課題研究にあたって欲しい。
- 伊沢正吉先生（あしぎん総合研究所）：自分は栃木県の地方創生に向けた研究等を行っている。企業が顧客に対して提言（提案）する場合は、他社との競争で勝たなくてはいけない。それを踏まえていくつかアドバイスしたい。まず、課題の設定（動機付け）をしっかり行うことが大切である。解決策の手法はデータをたくさん集めること。そして、提言や提案はより具体的であることが大切である。
- 小松俊明先生（東京海洋大学）：課題解決のために、成功している事例を探す。そして、成功している理由を見いだして、自分たちの研究と比較すると良い提言ができると思う。